大手前大学 国際看護研究所 研究集録　第５号（2023）pp. 18－33

〈報告〉

日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する現状と課題

中口　尚始・髙谷　知史・西村　直子
大手前大学国際看護学部

要約

目的：日本に定住する外国人家族が保健医療福祉における体験とその支援がどのような文化的領域に偏在しているのかを明らかにするために文献検討を行った。

方法：医学中央雑誌と CINAHL、PubMed、medline を用いて、国内文献は「外国人 AND 看護 AND 家族 AND（看護 OR 支援）」、国外文献は「Foreign* AND Famil* AND Japan* AND（intervention OR support OR Nurs*）」のキーワードで原著論文を対象に検索し58件の論文を分析対象とした。体験と支援のデータを抽出し、Purnell の文化アセスメントモデルを理論的枠組みとし Directed content analysis を行った。

結果・考察：体験と支援がともに明らかになった文化的領域は主に「コミュニケーション」「保健行動」「家族役割と家族関係」「保健医療従事者」「精神性」で、どちらかのデータが見られなかった文化的領域は「妊娠出産・育児」「労働関係」「概観伝統」「食栄養」「ハイリスク行動」であった。

結論：体験と支援に偏りがある文化的領域では特に、定住外国人家族の体験に基づく支援を今後拡充していくことが求められる。

キーワード：定住外国人、保健医療福祉、家族看護、Purnell の文化アセスメントモデル、文献検討

Current situation and issues regarding the experiences of and support offered to foreign resident families in the field of health care and welfare in Japan

Abstract

We conducted a literature review on the current experiences of, and support offered to, foreign resident families in Japan in the field of health care and welfare. This study's aim is to identify discrepancies between experiences and supports in the Purnell's cultural assessment model.

Journal articles were searched for in Ichushi–Web (Japanese medical database), CINAHL, PubMed, and medline using the 8 following keywords: "Foreign* AND Famil* AND Japan* AND (intervention OR support OR Nurs*)" and 58 articles were analyzed. Directed content analysis was performed on the data using Purnell's cultural assessment model as the theoretical framework. Both experiences and supports were seen in abundance in "Communication," "Health care practices," "Family roles and organization," "Health–care practitioners," "Spirituality". At least one of the experiences and supports were not seen in "Pregnancy," "Workforce issues," "Overview / heritage," "Nutrition," "High–risk behaviors" and "overview/heritage". Especially, many experiences were extracted in "Pregnancy and childbearing" area but no articles reported providing healthcare. In those areas, it is critical to providing healthcare services based on the experiences foreign resident families in Japan.

Keywords: Foreign resident, Field of health care and welfare, Family nursing, Purnell's cultural assessment model, Literature review

Ⅰ．緒言

昨今の国際化の流れにともない、2019年のわが国の在留外国人は約293万人（e-Stat 政府統計の総合窓口，2019年）と過去最多であり、そのうち約262万人が中長期在留者である。訪日する目的は様々だが、長期滞在の在留外国人や、家族帯同の外国人も増加している（法務省，2019年）。

厚生労働省の人口動態統計特殊報告における2014年の年齢調整死亡率国籍別比較では、日本に住む外国人は日本人と比較して自殺以外のすべての疾患で死亡率が高く、外国人の健康格差が見受けられる（厚生労働省，2014年）。

また、日本病院会の調べでは361の病院のうち75.6％の273の病院が在留外国人患者を受け入れた経験があると報告されている（一般社団法人日本病院会，2015年）。保健医療福祉サービス、社会保障は国籍を問わない基本的人権であり、人種、民族、宗教にかかわらず公平なサービスを享受する権利があることを医療従事者は倫理的責務として認識する必要があるといわれている（李，1999年，181）が、外国人と日本人の間の健康格差への対応については疑問の余地がある。

「看護者の倫理綱領」では、看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象としていることが明記されている（日本看護協会，2003年）。そのように家族は看護の対象の一つである。原（2008年）は、患者の QOL と家族の QOL を切り離して考えることはできず、患者と家族の双方が共に QOL を高めていくという看護の必要性を示している。また、現代の社会状況から家族に依存して患者のケアが成り立っているが、家族機能や形態が変容している現在において、家族は追い詰められ孤立しがちであるために、家族を支援することが必要であるということも述べられている（原，2008年，６）。そのように家族の看護を考えるうえで、家族看護学では家族の力を最大限に引き出すこと、家族全体の健康を目指すこと、未来の危機に備える力をつけることを目的に、患者だけでなくその家族への看護を目指している（上別府，2018年）。そのため、定住外国人においても、その家族までを健康状態に導くことが求められる。実際に、2019年現在の「家族滞在」の在留資格者は約20万人、「日本人の配偶者等」は約15万人、「永住者の配偶者等」は約４万人と、定住外国人とその家族の数はいずれも近年増加しており（出入国在留管理庁）、家族への支援の機会が増えていくことが考えられる。以上より、日本における定住外国人の家族への看護に注目する必要性が高まってきていると考えられる。

看護者は自らが背負っている文化背景を踏まえながら、支援対象者の健康行動や生活スタイルを規定するその文化背景を洞察・理解することによって、質の高い看護を提供することができると言われている（樋口，2012年，134）。つまり、外国人家族へ看護を提供する上で、対象者が持つ多様な文化背景を理解することが重要である。対象者の文化的背景をアセスメントするために、これまでに世界で使用されてきたモデルの一つに Purnell の文化アセスメントモデルがある。このモデルは、「概観伝統（Overview/heritage）」「コミュニケーション（Communication）」「家族役割と家族関係（Family roles and organization）」「労働関係（Workforce）」「生物文化的な生態（Biocultural）」「ハイリスクな行動（High-risk behaviors）」「食栄養（Nutrition）」「妊娠出産・育児（Pregnancy and childbearing practices）」「死の儀式（Death rituals）」「精神性（Spirituality）」「保健行動（Health care practice）」「保健医療従事者（Health care practitioner）」の12の文化的領域から構成されている。（Purnell，2002年 大澤，2015年，241）。このモデルは、対象者の価値や信条などに影響する文化的特性をアセスメントするために作られており、看護師が文化的に適したケアを提供し評価するために臨床実践の場で使用されている。また、看護師だけではなく、全ての医療従事者が臨床や教育、研究などの諸分野でこのモデルを用いることが出来る（Purnell，2002年 大澤，2015年）。

以上より、定住外国人家族に対する看護は非常に重要だが、本邦では、福祉専門職者による在住外国人問題への認識や介入は遅れ、サービスや制度が外国人の問題に専門的に対応できるシステムになっていないと指摘されている（石河，2018年）。本研究では、日本の保健医療福祉関して定住外国人家族が体験した事象と他者からの支援を明らかにする。その際、抽出した体験と支援それぞれのデータが Purnell の文化アセスメントモデルの文化的領域をもとにどのように偏在しているのかを明らかにする。本研究によって、体験し

た事象は多いが支援が未充足である文化的領域や、すでに多様な支援が実施されている文化的領域、困難な体験が多くみられる文化的領域などが明らかとなり、今後の効果的な定住外国人家族への支援の一助となる。

Ⅱ．方法

1．用語の定義

家族の定義は、互いに情緒的、物理的、そして／あるいは経済的サポートを依存し合っている２名以上の人々から成る集団とした（ハンソン，ボイド，2001年，５）。対象文献における家族がこの定義に該当するかを研究者間で確認してデータ抽出を行った。定住外国人とは、在留資格をもち３ヶ月以上日本に定住している外国人のことと定義した。これは、在留資格のうち“短期滞在”以外は最短３か月以上の期間のためである。定住外国人家族の保健医療福祉に関する体験とは保健医療福祉に関連した家族員もしくは家族全体の次元を含む家族の事象で、日本に定住することにより生じた印象に残る出来事や、その際の心身の状態や身体的感覚、反応のこと（中木，谷津，神谷，2007年）とした。定住外国人家族への保健医療福祉に関する支援は、家族員もしくは家族全体に生じる困りごとを解決するため、もしくは家族の状態を維持・向上させるために、家族以外の人や機関が行う行為とした。

2．文献収集方法

文献データベースは医中誌 Web（医学中央雑誌刊行会）と CINAHL、PubMed、medline を用いた。国内文献は「外国人 AND 看護 AND 家族 AND（看護 OR 支援）」のキーワードで、論文の種類を「原著論文」として検索した。国外文献は「Foreign* AND Famil* AND Japan* AND（intervention OR support OR Nurs*）」のキーワードで検索した。論文の発行期間は設定せずに検索をした。これらの検索結果から合計289件が得られ、1）定住外国人家族の保健医療福祉に関する体験の記述、2）定住外国人が保健医療福祉機関から受けている支援の記述を選択基準とし、1）外国人看護師に関する記述、2）家族ではなく個人の保健医療福祉に関する体験や支援に関する記述を除外基準とし、最終的に58件の文献を対象とした。

3．分析方法

対象文献における定住外国人の保健医療福祉に関する体験、支援についてのデータに対して Purnell の文化アセスメントモデルを理論的枠組みに Directed content analysis を実施した（Hsieh，2005年）。具体的には、抽出した体験と支援に関する記述を対象文献の結果と考察の部分から抜き出し、コード化した。コードはその意味内容に沿って、Purnell の文化アセスメントモデルの12の文化的領域に分類した後、帰納的にサブカテゴリとカテゴリへ集約した。

本研究ではこれまでの研究における体験と支援の文化的領域の偏りをみる目的に対して、１つの記録単位ごとに数量的に測定する Berelson の手法を参考として、Directed content analysis を行う、分析方法のトライアンギュレーションを実施した。具体的には、12領域に分類された文献の数が体験と支援それぞれの総文献数に占める割合を算出した。

また、先行研究が定住外国人家族の文化的領域を包括的に網羅できているのかを明らかにするために Purnell の文化アセスメントモデルを理論的枠組みとした。これにより、定住外国人家族に対してどのような文化的領域の研究が日本では充足されており、一方でどの領域で不足しているのかが明らかとなる。また、理論的根拠に基づいた定住外国人家族の体験や支援を抽出できる。

12の文化的領域のうち「妊娠出産・育児」の領域は、妊娠期から分娩、育児期の各ステージに渡って文献からデータが得られたこと、それぞれに体験や支援が異なることが分析過程で明らかになった。そのため、本研究では「妊娠出産・育児」の領域は臨床においてより具体的な支援を実践できるよう、対象文献における記述から妊娠期、分娩期、産褥期、育児期、そして出産プロセス全体を指すものの５つに細分化して分析を行った。

分析結果の真実性確保のために、データベースからの対象文献の選考、文献からのデータ抽出、カテゴライズの過程において、国際看護学もしくは家族看護学に従事する研究者間の確認および討議を繰り返し実施した。

Ⅲ．結果

1．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する調査の動向

58件の対象文献を表１に示した。また、先行研究について研究対象者、研究の専門領域、対象文献の出版年の推移を図１から３に表した。調査対象となった定住外国人家族の国籍は中国が最多で24件、次いでブラジルおよびフィリピンの19件、韓国および朝鮮の14件、タイの８件、ペルーの７件と続いた。対象文献では複数の国籍の家族を対象としているものが多く、以上の件数は延べ数である。研究デザインは質的研究が48件であったのに対して、量的研究は９件であった。理論的枠組みは表１の13番の文献（石井，2008）で家族エンパワーメントモデル、15番の文献（糸井，2007）でレイニンガーの民族看護学、24番の文献（前田，2018）でヒル・マッカバンの家族ストレス理論、26番の文献（マルティネス，2017）でヘルプシーキングの文化的要因理論がそれぞれ１件ずつ用いられていた。

2．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験

日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験に関するカテゴリを表２に示した。体験について記述されている文献は51件あり、計346コード、66サブカテゴリ、25カテゴリが得られた。以下に記した領域の順番は、記述された文献が多かった順番である。

1）コミュニケーション

「コミュニケーション」は言語や方言、思考や感情を共有する意思、アイコンタクトや表情などの言語的、非言語的コミュニケーションに関する領域である。【日本語を用いた意思疎通の困難など】【家族周囲の人との交流の変化】の２カテゴリが明らかになった。

2）妊娠出産・育児

「妊娠出産・育児」は妊娠や出産、産後に関する規範的、制限的および禁忌的行動などに関する領域である。出産プロセスでは【出産する国に対する家族員の思い】の１カテゴリが明らかになった。妊娠期では【日本と母国の妊娠に関する習慣の違い】【日本での妊娠期において母国とのつながりを保つこと】の２カテゴリが明らかになった。分娩期では【日本と母国の分娩に関する環境の違い】の１カテゴリが明らかになった。産褥期では【日本と母国の産後に関する環境の違い】【産後の生活に関する母国の伝統への思い】の２カテゴリが明らかになった。育児期では【日本と母国における育児の違いを認識すること】【育児に関する周囲からのサポートの重要性を認識すること】【育児における母国の伝統への思い】【日本で育児することへの適応】の４カテゴリが明らかになった。

3）保健行動

「保健行動」は伝統的、宗教的、生物医学的信条やそれらの健康実践、または、保健行動に対する障壁、病者役割などに関する領域である。【日本における保健医療福祉に関する情報入手の困難】【日本と母国の保健医療福祉に関する相違】【慣れない日本の保健医療福祉システムに関する困難】の３カテゴリが明らかになった。

4）家族役割と家族関係

「家族役割と家族関係」は家族内の役割構造や性別役割、家族の生活様式などに関する領域である。【日本語が使える子どもや親戚による日常生活の世話】【日本における自身の家族の在り方を考えること】の２カテゴリが明らかになった。

5）労働関係

「労働関係」は労働における文化的適応や同化の問題に関する領域である。【日本の労働環境が及ぼす生活の支障】の１カテゴリが明らかになった。

6）保健医療従事者

「保健医療従事者」はヘルスケアの提供者の状態やその関わり、ヘルスケア提供者に対する認識に関する領域である。【信頼できる保健医療従事者の要望】の１カテゴリが明らかになった。

7）概観伝統

「概観伝統」は出身国や居住地などの出自、居住地

表１．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する文献一覧（1）

No.	タイトル	著者	書誌情報
1	産褥入院中のムスリム女性の日本における出産に対するニード	有居 香乃，宮下 亜矢子，齊藤 美貴	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション 2017；47：23-26.
2	MSW が介入した在住外国人事例からの一考察	天野 博之，土屋 友香理，河合 由美，近藤 尚人，鐘ヶ江 祐子，伊藤 信司，井上 裕子，田中 幸恵	トヨタ医報　2007；17：179-185.
3	日本人男性を夫にもつ子育て中のアジア系外国人女性が家族との関係で抱く困難感	網谷 華，表 志津子，岡本 理恵，山田 裕子	Journal of Wellness and Health Care　2018；42(1)：75-84.
4	言葉が通じない外国人患者への看護	東 玲子，竹内 留美，陶山 克洋	日本精神科看護学術集会誌　2012；55(1)：466-467.
5	道北地域における外国人既婚女性の実態調査	原口 眞紀子，栗原 かおる，久保 治美	旭川医科大学研究フォーラム　2002；3(1)：76-81.
6	在日外国人女性の日本での妊娠・出産・育児の困難とそれを乗り越える方略	橋本 秀実，伊藤 薫，山路 由実子，佐々木 由香，村嶋 正幸，柳澤 理子	国際保健医療　2011；26(4)：281-293.
7	DV により夫から離れることを決断した在日外国人妊婦の事例	林田 幸子，片岡 弥恵子	聖路加看護学会誌　2008；12(2)：33-40.
8	伝統的医療行動の医療人類学的研究　文化背景の異なるコミュニティの比較研究	樋口 まち子	国際保健医療　2006；21(1)：33-41.
9	在日外国人の母親の子育て不安に関する研究	星野 明子，庄司 優子，大戸 さとみ，川村 明美，佐々木 明子，桂 敏樹	北日本看護学会誌　1998；1(1)：9-15.
10	在日フィリピン人母親が子育てで直面した困難と対処	吉田 真奈美，春名 めぐみ，大田 えりか，渡辺 悦子，Uayan Maria Luisa T.，村嶋 幸代	母性衛生　2009；50(2)：422-430.
11	Postpartum depressive symptoms and their association with social support among foreign mothers in Japan at 3 to 4 months postpartum.	Sawo Imai, Sachiko Kita, Hiromi Tobe, Masako Watanabe, Aya Nishizono-Maher, Kiyoko Kamibeppu	INTERNATIONAL JOURNAL Of NURSING PRACTICE 2017; 23(5)
12	日本に居住する日本人女性と非日本人女性に対する親密なパートナーからの暴力周産期の横断的研究（Intimate partner violence against Japanese and non-Japanese women in Japan: A cross-sectional study in the perinatal setting）	Inami Eriko, Kataoka Yaeko, Eto Hiromi, Horiuchi Shigeko	Japan Journal of Nursing Science　2010；7(1)：84-95.
13	家族看護エンパワーメントモデルにもとづく家族の理解　急性期統合失調症患者の配偶者を通して	石井 慎一郎	日本精神科看護学会誌　2008；51(2)：406-410.
14	外国籍ドナーの生体腎移植に対する心理	糸井 典子，白井 恵里，中村 まゆみ，田代 里枝子，山本 桐子，杉山 健	群馬医学　2012；96：153-156.
15	在日カンボディア人の伝統的な健康実践と援助関係へのニーズ	糸井 裕子	日本看護医療学会雑誌　2007；9(1)：8-17.
16	農村にて国際結婚をした中国人女性の妊娠・出産時期における家族関係構築プロセス	蛎崎 奈津子	日本看護研究学会雑誌　2009；32(1)：59-67.
17	アジア圏出身留学生とその妻が日本での妊娠期間中に直面した課題とその対応	蛎崎 奈津子，熊谷 恭子，奥寺 忍，伊藤 洋子	母性衛生　2010；51(2)：490-497.
18	亜昏迷状態を繰り返す外国人患者の退院支援　多職種協働により患者の思いを優先できた１事例	上地 喜代美，津波 幸代	日本精神科看護学術集会誌　2017；60：1：122-123.
19	無保険外国人患者の終末期療養における意思決定支援	上條 綾香，大久保 敏子，中野 和美	信州大学医学部附属病院看護研究集録 2018；46(1)：50-53.
20	Seeking “A Place Where One Belongs”: Elderly Korean Immigrant Women Using Day Care Services in Japan.	Kumsun Lee, Lourdes R Herrera C, Setsuko Lee, Yasuhide Nakamura	Journal of Transcultural Nursing 2012; 23(4): 351-358.

表１．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する文献一覧（2）

No.	タイトル	著者	書誌情報
21	看護・介護職者がとらえる在日コリアン高齢者支援における特徴と困難感	李 錦純，西内 陽子，高橋 芙沙子	兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要　2017；24：105-113.
22	在日中国人母親の子育てとその家族からの支援の特徴に関する研究	李 剣，木村 留美子，津田 朗子	金沢大学つるま保健学会誌　2015；39(1)：109-117.
23	石川県に在住する中国人母親の子育て支援に関する検討	李 剣，木村 留美子，津田 朗子	金沢大学つるま保健学会誌　2016；39(2)：171-179.
24	若年重症心不全を来した外国人留学生と家族への看護介入を振り返って　家族危機モデルを使用した考察	前田 友佳，江藤 希世，平田 彩，橋本 美幸，濱田 基伸，田上 愛，長渕 典子，白坂 雅子	福岡赤十字看護研究会集録　2018；32：9-11.
25	労働目的で来日した在日ペルー人女性の生活と育児	マルティネス 真喜子，畑下 博世，河田 志帆，金城 八津子，植村 直子	日本地域看護学会誌　2012；15(2)：97-106.
26	在日ブラジル人妊産褥婦の健康に影響する社会文化的要因	マルティネス 真喜子，畑下 博世，鈴木 ひとみ，Saint Arnault Denise M.，西出 りつ子，谷村 晋，石本 恭子	国際保健医療　2017；32(2)：69-81.
27	ドメスティックバイオレンス被害を有する移住外国人女性の複合的課題の研究	南野 奈津子	日本保健福祉学会誌　2016；23(1)：15-23.
28	言語的コミュニケーションが困難な家族との関わり　関わった看護師へのインタビュー調査を通して	宮田 千夏，菅家 智代，服部 裕子，中田 尚子	埼玉小児医療センター医学誌　2011；25(2)：133-136.
29	当院におけるフィリピン人産婦の援助	室岡 由美子，清野 ゆう子，半沢 恵子，村岡 美紀子，高橋 あけみ，小田 隆晴	山形県立病院医学雑誌　2000；34(1)：79-83.
30	外国籍の母親の子育てに関する調査研究　支援のあり方に向けて	中島 有季子	健康福祉研究　2016；13(1)：13-24.
31	在日ベトナム人高齢者の福祉の在り方	七山 智恵子	上智社会福祉専門学校紀要　2010；5：57-69.
32	妊娠期から産後１ヵ月までの在日外国人の主観的体験　複線経路・等至性モデルを用いて	西村 香織，村田 美代子，岡田 麻代，松井 弘美	母性衛生　2019；59(4)：869-877.
33	地域に住む在留外国人の健康に影響する諸要因の検討	大植 崇，大植 由佳	兵庫大学論集　2018；23：35-43.
34	大学病院で経験した特徴ある国際患者の３症例	相良 理香子，下野 信行，清水 周次，中島 直樹	国際臨床医学会雑誌　2018；2(1)：32-35.
35	在日韓国・中国・ブラジル人の母親の育児ストレス　日本の母親との比較から	清水 嘉子	母性衛生　2002；43(4)：530-540.
36	在日ブラジル人の母親の育児ストレス	清水 嘉子，増田 末雄	母性衛生　2001；42(2)：473-480.
37	ブラジル人コミュニティにおける母子保健及び子育て情報の伝達上の課題　愛知県Ａ市における外国人の母親を対象とした実態調査を通じて	坂本 真理子，淺野 いずみ，橋本 秀実，大橋 裕子，水谷 聖子	愛知医科大学看護学部紀要　2017；16：59-67.
38	日本に在住する外国人の母親の子どもに対する健康行動と関連要因	須藤 恭子，濱本 洋子	医療の広場　2016；56(8)：18-21.
39	Health behaviors of foreign mothers in Japan regarding their young children and the factors that affect these behaviors: A qualitative study.	Kyoko Sudo, Yoko Hamamoto	JAPAN JOURNAL OF NURSING SCIENCE 2019; 16(4): 420-432.
40	育児中の在日ブラジル人女性の日本の母子保健医療に対する認識とその背景　日本の母子保健医療の課題に関する考察（第１報）	杉浦 絹子	母性衛生　2008；49(2)：236-244.
41	育児中の在日ブラジル人女性の日本の母子保健医療に対する認識とその背景　日本の母子保健医療の課題に関する考察（第３報）	杉浦 絹子	母性衛生　2009；50(2)：267-274.

表１．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する文献一覧（3）

No.	タイトル	著者	書誌情報
42	育児中の在日ブラジル人の生活の特徴と社会文化的背景	杉浦 絹子	母性衛生　2010；51(1)：207-214.
43	滋賀県における在日ブラジル人女性の妊娠・出産・産後のケアに対する調査	高橋 里亥，古川 洋子，正木 紀代子，芦田 美樹子，大林 露子	人間看護学研究　2007；5：57-71.
44	在日外国人である母親の望む子育て支援と影響要因　国籍・気質・「愛着-養育バランス」尺度との関連	武田 江里子，木村 幸恵，田坂 満恵	母性衛生　2019；59(4)：770-776.
45	日本の公立小学校における外国人児童への心理的支援　取り出し指導と学級における支援からの一考察	竹山 典子，葛西 真記子	カウンセリング研究　2007；40(4)：324-334.
46	超低出生体重児を出産した外国人旅行者の両親との関わり　入院から退院までを通して親支援を考える	玉城 三枝子，島尻 あゆみ，仲間 かをり	沖縄の小児保健　2017；44：11-16.
47	不登校の滞日日系ブラジル人児童生徒の親子関係及び親子のニーズに関する質的検討	谷渕 真也，高田 純，兒玉 憲一	心理相談センター紀要　2016；11：7-12.
48	都内保育所における在日外国人母子への育児支援の現状と課題	田崎 知恵子，久保 恭子，星野 抄織	共立女子短期大学看護学科紀要 2007；2：19-30.
49	在日外国人が実感した日本の医療における異文化体験の様相	寺岡 三左子，村中 陽子	日本看護科学会誌　2017；37：35-44.
50	中国帰国者１世・２世とその中国人配偶者に必要な看護支援の検討　A 県在住者を対象とした健康状態と医療・看護・介護ニーズの実態調査から	辻村 真由子，石垣 和子，胡 秀英	文化看護学会誌　2014；6(1)：12-23.
51	在日外国人母の妊娠、出産および育児に伴うジレンマの特徴	鶴岡 章子	千葉看護学会会誌　2008；14(1)：115-123.
52	在日ブラジル人妊産婦の日常生活と保健医療ニーズ　妊婦健診・家庭訪問でのフィールドワークより	植村 直子，マルティネス 真喜子，畑下 博世	日本公衆衛生雑誌　2012；59(10)：762-770.
53	在日フィリピン人母の子育てにおける異文化適応過程に関する研究	歌川 孝子，丹野 かほる	母性衛生　2012；53(2)：234-241.
54	就学前児をもつ外国人母親の社会的ネットワークと子育てに対するソーシャルサポート	山中 早苗，中村 安秀	小児保健研究　2013；72(1)：97-103.
55	児童発達支援センター等における外国にルーツを持つ子どもおよび家族の実態調査	山根 希代子，前岡 幸憲，米山 明	脳と発達　2019；51(1)：33-34.
56	ハローベスト装着術と脊椎後方固定術の術前プレパレーションの評価　在日外国人５歳児への関わりをとおして	山内 郁恵，日下 理央	日本看護学会論文集：小児看護 2013；43：70-73.
57	在日中国人母親の育児ストレスに関する研究	楊 文潔，江守 陽子	日本プライマリ・ケア連合学会誌 2010；33(2)：101-109.
58	障害児を持った在日外国人家族へのサポート	湯原 恵子，大西 眞由美，加納 尚美	茨城県母性衛生学会誌　2000；20：32-34.

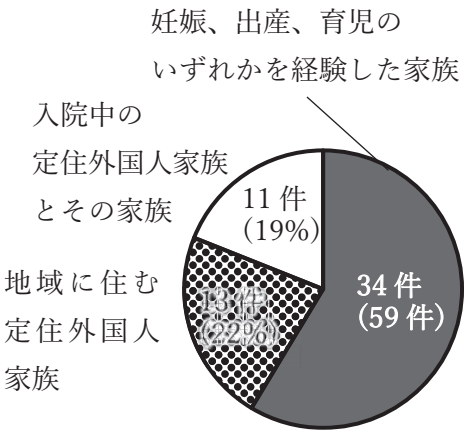

図１．研究対象者

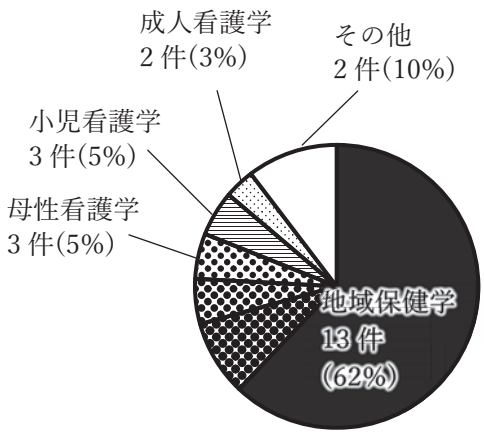

図２．研究の専門領域

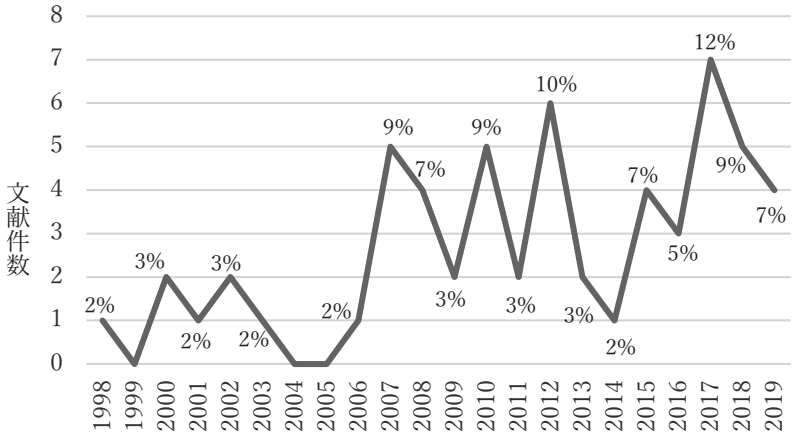

図３．対象文献の出版年（1998年－2019年）

の経済や政治状況などの地勢的な事項に関する領域である。【ビザ発給の制限による生活行動制限】【生活上における文化様式の認識の変化】の２カテゴリが明らかになった。

８）食栄養

「食栄養」は食事の選択や食事様式、健康増進のための食生活に関する領域である。【日本と母国両方の食文化】の１カテゴリが明らかになった。

９）精神性

「精神性」は宗教的慣習や人生に意味を与えるための行動などに関する領域である。【信仰する宗教に基づく日常生活】の１カテゴリが明らかになった。

10）ハイリスクな行動

「ハイリスクな行動」はタバコや薬物の乱用、危険な性行為などに関する領域である。【日本における家族内での暴力被害】の１カテゴリが明らかになった。

11）死の儀式

「死の儀式」は死に対する個人や文化的観点からの儀式や行動、死別に対する行動などに関する領域である。【母国の宗教儀礼に則った家族員の葬儀】の１カテゴリが明らかになった。

12）生物文化的な生態

「生物文化的な生態」は遺伝的傾向や地勢的疾患などの民族的人種的起源の事項に関する領域である。この領域における対象文献はなかった。

３．日本の保健医療福祉における定住外国人家族への支援

日本の保健医療福祉における定住外国人家族への支援のカテゴリは表３に示した。保健医療福祉における定住外国人家族への支援について記述されている文献は26件あり、計80コード、25サブカテゴリ、12カテゴ

表２．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験（1）

文化的領域 （　）内は文献数および体験の総文献数に占める割合		カテゴリ	サブカテゴリ （　）内は抽出文献番号
コミュニケーション（33文献：65%）		日本語を用いた意思疎通の困難	日本語の識字力が低いことによる困難（3,9,10,19,23,30,31,37,45,54,55,）
			保健医療福祉サービスを受ける上で意思疎通の困難 （5,6,10,19,21,23,27,29,30,31,32,33,41,49,50）
			積極的に日本語を学習しようとすること（9,14,30,45,47,57,）
			母語を用いた支援を求めること（31,57）
		家族周囲の人との交流の変化	家族周囲の人とのネットワークの形成（10,14,15,17,20,36,43,44,51,54,53）
			家族周囲の人との関係構築困難（6,10,23,27,30,31,36,45,52,54,55,57）
妊娠出産・育児 （23文献：45%）	出産プロセス（５文献：10%）	出産する国に対する家族員の思い	日本で出産することに対する関心と不安（8,17,52）
			出産に関する日本と母国の選択（6,40）
	妊娠期（７文献：14%）	日本と母国の妊娠に関する習慣の違い	日本と母国の妊娠に関する病院規定の違い（23,52）
			日本と母国の妊娠に関する健康観の違い（8,23,40,43,48,51）
		日本での妊娠期において母国とのつながりを保つこと	母国語で書かれた媒体からの妊娠情報の収集（43）
			妊娠に関する不安を軽減するために母国出身者との交流（51）
			妊娠に関する母国の伝統的方法を遵守すること（8,51）
	分娩期（３文献：６%）	日本と母国の分娩に関する環境の違い	日本と母国の分娩時に関する病院規定の違い（51）
			分娩時の周囲からのサポートの欠如（10,32）
			分娩時の日本の気候への適応困難（10）
	産褥期（11文献：22%）	日本と母国の産後に関する環境の違い	日本と母国の産後に関する病院規則の違い（1,40,51）
			日本と母国の産後の生活習慣の違い（9,23,29,40,51）
			日本における産後のサポートの欠如（16,22,23）
		産後の生活に関する母国の伝統への思い	母国での考えをもとにした産後の家族役割の準備（17,22）
			産後の生活に関する母国の伝統的方法の重視（8,15,40）
	育児期（23文献：45%）	日本と母国における育児の違いを認識すること	日本と母国の育児方法の違いによる健康不安（3,23,48,51）
			日本と母国の育児観の違い（10,22,30）
			日本での育児方法がわからないことへの不安（10,32,53）
			母国への帰国後の育児不安（35,36,57）
			日本の学校教育に対する希望や不満（30,35,36）
			育児に関する日本と母国の選択（26,30,53）
			育児に関する日本の社会生活への適応困難（6,9,17,19,23,35,36,48,51,53,54,57）

表２．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験（2）

文化的領域 （　）内は文献数および体験の総文献数に占める割合	カテゴリ	サブカテゴリ （　）内は抽出文献番号
	育児に関する周囲からのサポートの重要性を認識すること	育児に関する周囲からのサポートの利用（9,11,30,42,54,57）
		育児に関する周囲からのサポートの欠如による困難（5,10,11,22,30,32）
	育児における母国の伝統への思い	育児に関する母国の伝統的方法の重視（8,9,15,25,43,51）
		子どもに対する母国語の伝承（30,35,36,51）
		母国の文化を子どもに伝承したい思い（30,51）
	日本で育児することへの適応	育児における日本文化への適応（32,36,53）
		育児ストレス対処のために日本の地域社会との交流をもつこと（35,36,57）
		日本の教育に対する安心感（30）
保健行動（21文献：41%）	日本における保健医療福祉に関する情報入手の困難	日本の保健医療福祉の情報を積極的に収集すること（38,50）
		日本の保健医療福祉に関する母国語で書かれた媒体を求める（50,57）
		日本における保健医療福祉に関する情報不足(11,14,31)
	日本と母国の保健医療福祉に関する相違	母国における治療方法を重視すること（8,34,39,41,50）
		日本の保健医療福祉に関する安心（9,16,23）
		母国との違いから生じる日本の保健医療福祉への不安（19）
	慣れない日本の保健医療福祉システムに関する困難	日本の保健医療福祉のサービスを受けるうえでの理解不足（33,41,42,49,50）
		日本の保険制度の利用が難しいこと（19,21,25,26）
		外国人家族が利用しやすい制度やサービスを求めること（21,44）
家族役割と家族関係（12文献：24%）	日本語が使える子どもや親戚による日常生活の世話	日本語が使える家族員による他の家族員の生活の世話（10,24,31,39,47,48,56）
		家族員相互に支え合う日本での生活（3,22,31）
	日本における自身の家族の在り方を考えること	それぞれの家族員がもつ理想の家族像の違い（3,9,50）
		日本における子どもの交友関係の変化に対する親の気がかり（10,37）
労働関係（７文献：14%）	日本の労働環境が及ぼす生活の支障	日本での仕事が過酷であること（19,30,42,52）
		育児と仕事の両立の難しさ（30,35,36,57）
保健医療従事者（６文献：12%）	信頼できる保健医療従事者の要望	日本の保健医療従事者が外国人へ壁を作ること（26,49）
		日本の保健医療従事者への安心感（14,17,49）
		同国出身の保健医療従事者を求める（31）
		保健医療従事者との継続的な関わりを求める（44）

表２．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験（3）

文化的領域 （　）内は文献数および体験の総文献数に占める割合	カテゴリ	サブカテゴリ （　）内は抽出文献番号
概観伝統（４文献：８％）	ビザ発給の制限による生活行動制限	ビザ発給の制限による家族の行動制限（24,41）
	生活上における文化様式の認識の変化	相手の文化を理解すること（4）
		母国の生活様式を希望する（20）
食栄養（３文献：６％）	日本と母国両方の食文化	健康のために日本で母国料理を作っていること（8,51）
		日本と母国との食文化の違い（9,51）
精神性（３文献：６％）	信仰する宗教に基づく日常生活	信仰する宗教に基づいた受療行動（14,41）
		信仰する宗教に基づく地域のネットワーク形成（54）
ハイリスクな行動（２文献：４％）	日本における家族内での暴力被害	日本人パートナーからの暴力（12）
		母国の家族のことを考えて配偶者からの暴力から逃げ出せないこと（2）
死の儀式（１文献：２％）	母国の宗教儀礼に則った家族員の葬儀	母国の宗教儀礼に則った家族員の葬儀（24）
生物文化的な生態（文献なし：０％）	—	—

表３．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の支援

文化的領域 （　）内は文献数および支援の総文献数に占める割合		カテゴリ	サブカテゴリ （　）内は抽出文献番号
コミュニケーション（19文献：73%）		外国人が意見を表出しやすいような環境の設定	周囲の人との交流の機会を設ける（5,54,55）
			外国人家族の多様性を尊重して関わる（4,14,24,43,47,48,55）
			積極的なコミュニケーションを図る（18,24）
		外国人家族に対する言語的および非言語的サポート	ジェスチャーを交えてコミュニケーションをとる（18,55）
			平易な日本語を用いて説明を行う（13,55）
			外国人が理解しやすい日本語の表記方法を用いる（55）
			保健医療福祉に関して外国語で書かれた資料を用いる（7,13,18,29,30,43,48,54,55）
			通訳を用いる（4,6,14,18,24,34,41,43,48,54,58）
			日本語の使用方法を助言する（55）
保健行動（７文献：27%）		日本の入院や手術の準備ができるようにする	視覚的プレパレーションで手術のイメージを促す（56）
			日本の入院治療適応のために入院期間を長く設定する（14）
		外国人家族へ個別的に対応できる行政福祉サービスを提供する	保健センターによる直接的な相談機会を設ける（6）
			外国人家族が利用可能なサービスを提示する（5,37,58）
		日本と母国の保健医療を併用する	日本以外の保健医療サービスを取り入れる（6）
			母国の伝統的治療法を取り入れる（8）
精神性（５文献：19%）		信仰する宗教や死生観に配慮して関わる	信仰する宗教や死生観に配慮して関わる（1,19,24,28,55）
妊娠出産・育児（４文献：15%）	出産プロセス（１文献：４%）	出産において外国人家族の利用可能な情報を提供する	出産において外国人家族の利用可能な情報を提供する（17）
	妊娠期（文献なし：０%）	—	—
	分娩期（文献なし：０%）	—	—
	産褥期（２文献：７%）	褥婦だけでなく家族を含めた産後ケアを行う	褥婦だけでなく家族を含めた産後ケアを行う（1,29）
	育児期（１文献：４%）	日本で子どもが成長していくための育児支援	日本の子育てを学ぶ機会を提供する（37）
			子どもの将来のための言語習得や学習のサポート（37）
保健医療従事者（３文献：12%）		外国人家族を支援する保健医療従事者間で足並みをそろえて関わる	外国人家族をとりまく外部の保健医療福祉機関と連携する（2,5,24）
			外国人家族の文化的な情報を保健医療従事者間で共有する（24）
家族役割と家族関係（２文献：７%）		患者を支援できるよう家族の体制を整える	入院中の家族に対してケア参加を促す（28）
			外国人家族が日本で一緒に過ごすための機会を作る（24,28）
食栄養（１文献：４%）		日本の食事メニューを提案する	日本の食事メニューを提案する（48）
概観伝統（文献なし：０%）		—	—
労働関係（文献なし：０%）		—	—
生物文化的な生態（文献なし：０%）		—	—
ハイリスクな行動（文献なし：０%）		—	—
死の儀式（文献なし：０%）		—	—

リが得られた。

1）コミュニケーション

「コミュニケーション」では【外国人が意見を表出しやすいような環境の設定】【外国人家族に対する言語的および非言語的サポート】の２カテゴリが明らかになった。

2）保健行動

「保健行動」では【日本の入院や手術の準備ができるようにする】【外国人家族へ個別的に対応できる行政福祉サービスを提供する】【日本と母国の保健医療を併用する】の３カテゴリが明らかになった。

3）精神性

「精神性」では【信仰する宗教や死生観に配慮して関わる】の１カテゴリが明らかになった。

4）妊娠出産・育児

「妊娠出産・育児」において、出産プロセスでは【出産において外国人家族の利用可能な情報を提供する】の１カテゴリが明らかになった。産褥期では【褥婦だけでなく家族を含めた産後ケアを行う】の１カテゴリが明らかになった。育児期では【日本で子どもが成長していくための育児支援】などの１カテゴリが明らかになった。

5）保健医療従事者

「保健医療従事者」では【外国人家族を支援する保健医療従事者間で足並みをそろえて関わる】などの１カテゴリが明らかになった。

6）家族役割と家族関係

「家族役割と家族関係」では【患者を支援できるよう家族の体制を整える】の１カテゴリが明らかになった。

7）食栄養

「食栄養」では【日本の食事メニューを提案する】の１カテゴリが明らかになった。

Ⅳ．考察

１．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援に関する調査の動向

対象文献における研究対象者は、妊娠、出産、育児のいずれかを経験した家族に重点化されていた。また、対象文献の専門領域では母子保健分野が多数を占めていた。現在、外国人の女性人口自体が2019年までの５年間で約53万人増加の約186万人（2019年）であり、その中でも20～30代の生産人口割合が多い（eStat 政府統計の総合窓口，2019年）ことが要因と考えられる。妊娠や出産、育児においては、新生児訪問や定期健診などで定住外国人母子に接触する機会が多く、必然的に母子保健に関する研究が多くを占めると考えられる。

一方で、地域保健学の高齢者に関する研究は２件であった。在留外国人総計のうち65歳以上の者は６％程度にとどまるが、現在在留外国人数が増加している状況において今後さらに65歳以上の外国人数が増加していく可能性も考えられ、支援の検討が必要である（e-Stat 政府統計の総合窓口，2019年）。

対象文献が少なかったベトナムやインドネシアからの定住外国人家族は支援の機会も少なかったのかもしれない。しかし2022年にはベトナム出身の在留外国人は前年より＋10.0%、インドネシア出身の在留外国人は＋39.0%と急激に増加（出入国在留管理庁）しており、今後さらなる支援の機会が増えることが予想される。これまで支援の機会が少なかったベトナムやインドネシアをはじめとする様々な国籍の多様な文化的背景を理解し、支援を拡大することが今後求められるだろう。

２．日本の保健医療福祉における定住外国人家族の体験とその支援

定住外国人家族の体験と支援がともに明らかになった文化的領域は「コミュニケーション」「保健行動」「家族役割と家族関係」「保健医療従事者」「精神性」があり、一方で体験と支援のどちらかのデータが見られなかった文化的領域は「妊娠出産・育児」「労働関

係」「概観伝統」「食栄養」「ハイリスク行動」があった。ここでは、体験と支援に偏りがあった文化的領域について考察する。

1）妊娠出産・育児

この領域における体験が28文献に記述されていることに対し、支援に関する記述は4文献にとどまっていた。特に、妊娠期は＜日本と母国の妊娠に関する病院規定の違い＞＜日本と母国の妊娠に関する健康観の違い＞＜妊娠に関する不安を軽減するために母国出身者との交流＞を行うなど、妊娠期間における日々の生活の中での困難な体験が多くあったが、支援を記述した文献は無く、＜分娩時の周囲からのサポートの欠如＞【産後の周囲からのサポートの欠如】＜育児に関する周囲からのサポートの欠如による困難＞などの体験が見られた。分娩期においては、陣痛発来などを詳細に予測できないため、分娩の際に妊産婦の家族や知人から協力を得られるとは限らず（橋村，大西，2016年）、周囲からの適切なサポートが得られにくい。そのため、妊娠期の段階から、家族の役割構造や周囲からのサポートの状況を把握し、分娩から産後に向けて継続してサポートが得られるように準備をしていくことが重要であるだろう。

2）労働関係

【日本の労働環境が及ぼす生活の支障】という、仕事による家族生活や育児への影響に関する問題が明らかになった一方で支援に関しては文献がなかった。本研究では保健医療福祉に関する領域の文献のため、定住外国人家族の労働的側面に直接焦点をあてて支援を実施した文献はなかったのかもしれない。厚生労働省によると、2020年現在の日本では外国人労働者数はおよそ172万人、外国人労働者雇用事業所はおよそ27万か所でどちらも増加の一途をたどり過去最多の数となっている（厚生労働省，2020）。今後も同様の状況が続く場合は、外国人労働者を迎える体制整備が急がれる。

また、瀧尻（2009年，187）によると、外国人は家族の分まで稼がなければならないことや、自由の制限による現状から逃れられないことなど、守るべき家族が負荷や葛藤の原因になる可能性が指摘されている（瀧尻，2009年，187）。保健医療福祉の分野で外国人労働者を支援する際には【日本の労働環境が及ぼす生活の支障】という体験にあるように、労働環境と家族の生活とのバランスにも注視し、家族員もしくは家族全体の健康面への影響もアセスメントする必要がある。

3）概観伝統

体験として【生活上における文化様式の認識の変化】が見られ、日本で定住することで他者の文化を理解する一方で、日本ではなく母国の文化様式を望むといった体験であった。日本に定住し周囲の文化様式が変化したことで、家族にとって日本の文化への理解と適応が必要となる。定住外国人家族はPurnellの文化アセスメントモデルのうち様々な文化的領域においても日本と母国の生活習慣の相違や適応困難の体験をしている。入院環境の例では、来日間もない外国人患者の場合は入院のストレスと異文化との葛藤の相乗的作用で不安定な心理状態にあると言われている（李，2018年，27）。しかし、定住外国人家族はそのようなストレッサーとなりうる様々なライフイベントを通して、地域におけるコミュニティや生活基盤とのつながりを深め地域社会に根づいていくこととなる。そのためにも、本領域における家族への支援においては、日本の文化に対する家族の捉え方や理解度を知ることに加え、現在の家族に生じているライフイベントに対する家族の対処や生活のありようを理解することも必要である。

4）食栄養

【日本と母国両方の食文化】に関する体験に対して、【日本の食事メニューを提案する】という支援がみられたが、母国の食事メニューに関する支援は無かった。国や地域によって食文化は大きく異なり、例えばブラジルの食文化をもつ外国人の場合は肉類や油脂類の過剰摂取や野菜類・魚類の摂取不足が特徴としてあげられる（千野，2005）。また、様々な国からの在日留学生でも栄養面の偏りが指摘される（安友・西尾，2008）。そのため、定住外国人家族が【日本と母国両方の食文化】という体験において日本と母国の食文化を取り入れる際には、健康面から見た適切な食事摂取や栄養バランスを考え指導する支援が必要となる。

5）ハイリスク行動

【日本人パートナーからの暴力】が体験として明ら

かとなったが、外国人家族に限らず、日本における配偶者からの暴力被害は相談件数が年間に約13万件もあり、重大な問題である。特に、日本語が十分に話せない被害者からの相談件数は年間約１千500件にものぼる（内閣府男女協働参画局，2020）。定住外国人家族がDV被害を訴えることや支援者を頼ることは難しく、定住外国人家族内のDV事案に介入したケースもこれまでに多くはないであろうことが支援の文献が無かった一因であると考えられる。南野（2016年）によると、DV被害経験を有する移住外国人女性が有する複合的な課題は、社会生活力の乏しさに関わる課題や来日後の夫や夫家族との軋轢、子どもの養育問題などが重なって形成されていると言われている（南野，2016）。そのように、日本での生活基盤や人間関係、社会的つながりが根こそぎ奪われることは、被害者が暴力被害を訴えることができない大きな要因になっていると指摘されている（李，2018）。支援の際にはDV被害の状況だけでなく、家族内外の状況や家族員の置かれている立場などを複合的にアセスメントする視点が必要となる。

Ⅴ．結論

本研究では、日本の保健医療福祉における定住外国人家族が抱える体験やそれに対する支援を、Purnellの文化アセスメントモデルに基づいて分類し、文化的領域における偏りを明らかにすることができた。定住外国人家族の体験と支援がともに明らかになった文化的領域は主に「コミュニケーション」「保健行動」「家族役割と家族関係」「保健医療従事者」「精神性」があり、一方で体験と支援のどちらかのデータが見られなかった文化的領域は「妊娠出産・育児」「労働関係」「概観伝統」「食栄養」「ハイリスク行動」があった。

Ⅵ．文献

千野史香．（2005）．長野県上伊那地域に住む日系ブラジル人男性の食生活を中心とした生活習慣と健康．長野県看護大学紀要，7，83-91.

e-Stat 政府統計の総合窓口．在留外国人統計．https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00250012&tstat=000001018034.（参照 2020-08-03）.

原礼子．（2008）．家族看護学をはじめて学ぶ．山崎あけみ，原礼子（Eds.），看護学テキスト NiCE 家族看護学19の臨床場面と８つの実践例から考える．東京南江堂．P 6.

橋村愛，大西真由美．（2016）．長崎市・佐世保市の看護職が考える外国人への周産期ケアコミュニケーション能力．国際保健医療，31(4)，323-332.

樋口まち子．（2012）．文化を考慮した看護．田村やよひ（Eds.），新体系 看護学全書 統合分野 看護の統合と実践 国際看護学．東京：メヂカルフレンド社．P 134.

法務省．令和元年６月末現在における在留外国人数について（速報値）【令和元年６月末現在】公表資料．http: // www. moj. go. jp / nyuukokukanri / kouhou / nyuukokukanri04_00083.html.（参照 2020-08-20）.

Hsieh H F, Shannon S E.（2005）. Three approaches to qualitative content analysis. Qual Health Res, 15 (9), 1277-1288.

一般社団法人日本病院会．平成27年「医療の国際展開に関する現状調査」結果報告書．http://www.hospital.or.jp/docu/index.html.（参照 2020-02-12）.

石河久美子．（2018）．多文化ソーシャルワークの実践の現状と課題．社会福祉学，59(4)，85-88.

上別府圭子．（2018）．家族看護とは．上別府圭子（Eds.），家族看護とは，系統看護学講座 家族看護学．東京：医学書院．p 11.

厚生労働省．平成26年度人口動態統計特殊報告「日本における人口動態―外国人を含む人口動態統計―」の概況．https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/gaikoku14/index.html（参照 2022-04-14）.

厚生労働省．「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和２年10月末現在）．https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_16279.html.（参照 2022-04-14）.

李節子．（1999）．在日外国人の保健医療福祉．国際看護研究会（Eds.），国際看護学入門．東京：医学書院．P 181.

李節子．（2018）．在日外国人の健康支援原論．李節子（Eds.），在日外国人の健康支援と医療通訳．東京：杏林書院．P 27.

南野奈津子．（2016）．ドメスティックバイオレンス被害を有する移住外国人女性の複合的課題の研究．日本保健福祉学会誌，23(1)，15-23.

内閣府男女協働参画局．令和２年度配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数．https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/data/01.html（参照 2022-04-14）.

中木高夫，谷津裕子，神谷桂．（2007）．看護学研究論文における「体験」「経験」「生活」の概念分析．日本赤十字看護大学紀要，21，42-54.

日本看護協会．「看護者の倫理綱領」．https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html.（参照 2022-04-14）.

大澤絵里．（2015）．文化を考慮した看護．浦田喜久子，小原真理子（Eds.），系統看護学講座 統合分野災害看護

学・国際看護学 第三版．東京：医学書院．P 241.
Purnell L.（2002）. The Purnell Model for Cultural Competence. Journal of transcultural nursing, 13(3), 193-196.
S. M. ハーモン・ハンソン，S. T. ボイド（Eds.）．村田恵子，荒川靖子，津田紀子（Trans.）（2001）．家族看護学：理論・実践・研究．東京：医学書院，東京．P 5.
出入国在留管理庁．令和 4 年 6 月末現在における在留外国人数について．https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00028.html.（参照 2022-11-30）
瀧尻明子．（2009）．在日外国人の健康課題．守本とも子（Eds.）．国際看護への学際的アプローチ．東京：日本放射線技師会出版会，165-187.
安友裕子，西尾素子．（2008）．留学生の食生活と食環境との関連に関する萌芽的研究．生活学論業，14，83-95.